

## 東大和市学校規模等のあり方検討委員会（第4回）会議録

### 1. 開催日時

平成22年5月26日（水）午前9時から

### 2. 開催場所

会議棟 第2会議室

### 3. 出席者

委員 青野かほる 荒川進 小川雅義 鈴木一徳  
渡辺理万 菊地明 菊地フミ子  
事務局 小島学校教育部長 田代学校教育課長  
山崎学務係長 石原主任

### 4. 公開・非公開の別

公開

### 5. 傍聴者数

0人

### 6. 議題

- (1) 小規模校（第三小学校）視察
- (2) 第三小学校の規模等について、検討・まとめ
- (3) その他

### 7. 会議の要旨

- (1) 小規模校（第三小学校）視察

#### ①校舎視察・校長説明

校長：三小は272人の児童で、全員の顔と名前が覚えられる。全ての先生が覚えている。保護者からも安心という言葉をいただいている。ひとりひとりの成長がみられる。

学級数が少ないため、専科授業が全学年でできる。算数少人数学習が全学年でできる。きめ細やかな個に応じた指導ができる。

学年の間に児童会室などを入れることによって、静かな環境で学習ができる。外国語学習室や算数の学習室があり、その場所に行けば、すぐに学習に入れる。余裕教室があるからできる。

担任も保護者も、子供同士の人間関係の面や学習の面で1学年2クラスを望んでいる。

## ②校長への質疑

・委員：運動会はどうか。

校長：保護者がゆったり最後までいてくださる。保護者と地域の皆様が楽しみにしていてくださる。

・委員：競争という面ではどうか。

校長：競争という面では育成されていない。6年生まで一緒なので仲がよい。

・委員：大きい学校を少人数の先生で管理するのは大変なのではないか。子供たちは一人一人が大切にされていると感じた。中学校に進学したときに、小規模校の経験だけでは、人間関係が難しくなるのではないか。

校長：三中へは、五小、六小と三小から行くが、三中の7分の1しかないため、卒業した子供たちはカルチャーショックを受けるようである。

・委員：放課後子ども教室、生活科室など、特別教室の活用の仕方はどうなっているのか。

校長：放課後子ども教室では、青少対が放課後の子どもの居場所づくりを木・金の1:30から4:30までボランティアで行っている。太陽の学習室は、算数少人数学習や放課後の補習などで使っている。生活科室は、子供たちが作業をするときに使っている1教室では足りないときに半分は自分の学級、半分は生活科室で行っている。1年生の隣に置いている。

・委員：3階の学習室と2階の学習室（太陽）との違いは何か。

校長：3階は都の教諭、2階は市の教諭である。

・事務局：仮に将来、児童が増えた場合には、対応できるか。

校長：生活科室と学習室の2学級を普通学級にする。

・委員：単学級としての負担はあるか。

校長：行事等の時、先生が一人で全部する。主任の仕事まで学級担任がすることになり、若手も学年主任をする。担任が複数いる学年よ

り一人当たりの負担が大きい。

- ・事務局：児童数を増やすために、学区域を変更した場合に何か問題があるか。

校長：学校としては、良いが、地域、保護者や地元の人がどう思うかが大事である。

(2) 第三小学校の規模等について、検討・まとめ

- ・委員：三小を見学した感想、課題、問題点などをお聴きしたい。
- ・委員：教育にゆとりがある。掃除も行き届いている。  
ただ、1クラス40人近い学級だった。単学級が2学級になれば20数人の学級になるので理想的かなと思った。
- ・委員：施設的には恵まれている。2学級欲しい。通学区域を見直す余地もあるが小規模校を救うために、適正規模校の通学区域を小さくすることは無意味である。住宅が建つかもれない。施設の古さ、薄暗さを感じた。子供や先生の努力で、一生懸命きれいにしている。
- ・委員：恵まれた教室配置である。八小とはだいぶ違う。子ども一人の占有面積はどのくらい違うのか。八小にはない特別教室が3つも4つもあり、市内の小学生の教育に差があるように感じた。学区域の子どもの人数を増やすより、教室の活用のしかたを考えたほうが良いと思った。
- ・委員：八小にないものがある。三小を先に見せて欲しかった。八小は空き教室がなく、廊下に教材があったが、三小は片付いており、広く、明るく感じた。こんなに違いがでるのかという感想である。お母さんたちの間で、あと一人いれば2クラスと残念がる声があるが、足りなくても2クラスにする例外が学校によってあっても良いのではないかと感じた。
- ・委員：五小の学区を受け入れることも考慮しても良いと感じた。あのような地域に開かれた学校があるということ、教育の原点として小学校がいかに大事かということ、地域の方に知っていただくということが大事である。

- ・委員：ゆとりある学校でいいなと思った。専科をそろえるというか、市でこういう特色をもった学校を作るというのは非常に大事だと思った。学校規模の調整で平均化できないものかと考える。住民の気持ちは複雑で、大事なものであるから一概にはできないと思うが、そういう考えも必要である。
- ・委員：新しい団地と比べると、学校がみすぼらしい。外観も大事ではないか。八小の子どもたちも一生懸命やっているが、三小のほうがのびのびとゆとりや大らかさを感じる。あのようなスペースで6年間過ごす子供と満杯の教室で6年間を過ごす子供たちとでは、一つの地域で格差がある。1年生から専科の先生に教えてもらえることも、同じ市でも格差があると感じる。財政的に厳しいこともわかるが、先進地域のことを知ってもらうことも大事である。
- ・委員：他地域の学校を見ないと規模が結びつかない。他地域で統合している学校は珍しくないが、ただくっつけるだけなら、統合に賛成する人はそういない。いい学校をつくるから統合するとなれば、皆に賛成してもらえないのではないか。お金の話は抜きにして、いずれそういう他地域の学校もみてみたい。
- ・委員：事務局の方にとって耳が痛いことだと思うが、理想にどれだけ近づけるかという視点でいきたいと思う。いずれそういう学校を見学したい。

事務局：八小と三小であのぐらいカルチャーショックがあるので、もっと進んだ学校を見てみるのも必要である。期間中に、もしどこか調整ができれば他地域を見てみたい。
- ・委員：都も、小1問題で、低学年から順次1クラスの定数が変わっていくと思う。その辺の見通しなどを指導室長から話していただきたい。

事務局：1年生は39人でも2クラス、次の年も39人の予定。
- ・委員：それに合わせて児童数、学級数も見通しが変わってくる。

事務局：小1問題、中1ギャップの、あの加配の制度の説明の部分を、指導室長から話していただく。
- ・委員：八小、三小を見たまとめを、次回あたりにして、その中で、もし時間があれば指導室長から話をしてもらう。

- ・委員：地域が変わっていくと同時に学校も変わっていかなくてはならないのに、昔のままでいるので、多少の変更なり、調整区域を作っ  
ていかざるを得ないというのは、もう皆さん感じていることだと思  
うが、その辺の度合が難しい。
- ・委員：もっと学校を公開し、地域の保護者もお互いに見合うような雰  
囲気、環境づくりは必要である。三小の子どもたちは、中学へ行く  
と7分の1になる。それを心配している高学年の保護者もいると思  
う。そのためにも2学級ということだと思う。中学校のことも  
含めて、学区を考えていく必要がある。

### (3) その他

- ・次回以降の委員会について  
次回は平成22年7月13日(火)午前9時から開催する。指導室長  
から話を聞き第八小学校・第三小学校の視察のまとめをする。